

1. 評価結果概要表

作成日 2007年9月20日

【評価実施概要】

事業所番号	0372100743		
法人名	社団医療法人 池田記念会		
事業所名	グループホームほほえみの家		
所在地	〒020-0173 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字高屋敷平11-1 (電話)019-684-2606		
評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成19年9月6日	評価確定日	平成19年11月21日

【情報提供票より】(平成19年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 2 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14 人, 非常勤	人, 常勤換算 14 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り (2棟)		
	1階建て	1階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,250 円	その他の経費(月額)	無	その他実費	円
敷金	有(円)	有りの場合	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合	償却の有無		有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食	250 円	
	夕食	250 円	おやつ	100 円	
	または1日当たり		850 円		

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2		5 名	
要介護3	6 名	要介護4		3 名	
要介護5	1 名	要支援2		名	
年齢	平均 86.1 歳	最低	78 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	かなもり神経科・内科クリニック、八幡歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、社団医療法人池田記念会の運営する事業所の1つで、JR盛岡駅からバスで25分ほどのところ、主要道路には接しているものの、近接した住宅は無く、りんご畑に囲まれた、閑静な場所に位置している。広々とした自然環境の中、利用者は天気の良い日は、外気浴などしてゆったりと時間を過ごしている。ホームはAユニット、Bユニットの2棟に分かれているが、職員の相互協力の下、利用者本位を基本に、利用者と職員が支えあい、利用者との馴染みの関係を保ちながら、明るい生活をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価では、身体拘束の廃止に関する研修・学習の実施や、介護計画の評価・見直し、地域との交流などの関する事項について改善課題としているが、それぞれ職員間で話し合わせ概ね改善が図られている。なお今後もサービスの質の向上に向け改善努力するとしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価に対して、数回にわたり全職員が協議を重ねて取り組んでいる。この評価を通して得られた気づき(例えば、家族アンケートの実施など)についても、全職員が話し合い、その実現に努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は定期的開催され、内容は、前回の会議結果、ホームの活動状況の報告、意見交換・要望などが主なものとなっている。委員からは多くの発言があり、活発な会議となっている。外部評価についても、報告がなされ意見交換も行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会は設けられていないが、行事等を活用した家族との話し合い、意見交換に努めている。また、家族アンケートを実施するなど、家族から意見、要望等をいただく工夫をしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域自治会に加入している。ボランティアの訪問を通しての外部との交流はあるが、日常的な地域の活動、近隣住民との係り、交流はまだ十分でなく、今後の課題である。

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で話し合い「グループホームほほえみの家では、入居者皆様の夢、希望が実現できるよう、そっとお手伝いさせていただきます」と「職員の理念」を定めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケアプランや日常のケアに理念を反映させるため、職員の行動目標を決め、日常的に確認できるよう玄関や台所等に掲示し実践しているとともに、月1回職員会議の場で確認し合っている。なお、理念の実践に向けて左に掲げる項目の支援に取り組んでいる。		(※)「ほほえみの家」での暮らしと生活の特色として「自由な生活」「穏やかで安らぎのある暮らし」「喜びと達成感のある暮らし」「意思や思いが大切される暮らし」「生活にはりあいや楽しみがある生活」「外に開かれた生活」「安心できる生活」の7つを掲げ、その実践を図っている。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会に加入したが、これをきっかけに地域活動や近隣住民との係わり、交流が深まりつつある。地域版広報誌の回覧板にホームの活動情報を挟んでもらっている。また、地域とのつながりにより、ボランティアの訪問がふえてきている。	○	運営推進会議の設置・開催をきっかけにホームに関心を持っていただけるようになった。また近くに小中学校があり、地域との交流、地域行事への参加ができる環境にあることから今後を期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の外部評価の課題を踏まえて、今回の評価では全職員による協議を7~8回行いまとめると同時に、理念の見直し、報告・連絡・相談の徹底、ケアの再確認などの課題が出された。更に具体的な気づきによる取り組みとして例えば、家族アンケートの実施などを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催している。内容は、前回の会議結果、ホームの活動状況、意見交換・要望などとなっている。委員から多くの意見等が出されており活発な会議となっている。なお、運営推進会議には、委員のほか入居者自身も参加している。ホームでは特に家族への参加を広報誌で呼びかけている。	○	必要に応じて、ホームにとって身近なテーマを設定してそれを中心とした意見交換や、委員以外の関係者(例えば、消防や警察など)の出席を要請し意見交換をすることも大切と考える。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	村の担当者がホームを訪問することは少ないが、地域ケア会議を通しての話し合いや、運営推進会議議事録や広報誌の役場への届出の機会を捉え、様々話す機会をとっている。分からないことや困ったことなどについても、よく相談できる関係にある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	広報誌「スマイル」で利用者の暮らしぶりをお知らせするほか、家族の面会時に健康状態などについて、ケース記録を提示しながら報告している。状態変化時等必要の都度、連絡を取り合っている。預かり金は面会時に金銭の収支状況のコピーを渡し、確認・サインをいただいたり、収支一覧表を送付したりしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前は家族会が設置されていたが、現在は設けていない。家族等の意見反映については、様々の行事等の機会を活用し話し合いや意見交換が行われている。更に、家族アンケートを実施して家族から意見・要望等をいただいている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との馴染み、信頼関係が重要との認識から、基本的には職員の固定化に努めている。今年度、介護職員の資質の向上及び見識を高めるための人材養成の一環として人事異動を行ったが、隣接の施設に異動した者は、機会あるたびに立ち寄るなど、利用者のつながりを大切にしている状況がうかがわれる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については、内容や職員の経験、能力などを考慮して派遣している。研修結果は、職員会議で伝達して、情報を共有している。グループホーム協会の定例会には、多くの職員が参加するように積極的に声かけをしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議やグループホーム協会(岩手県、ブロック)の定例会に参加するほか、同協会が実施する交換研修にも参加し、サービス向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新たな利用者には、試し入所や何度か通ってもらうなど、ホームの雰囲気に馴染めるようにしている。やむをえず、その機会をもてない場合は、家族に来てもらうなど、利用者の不安の軽減に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事、洗濯、掃除などの過程で、職員と利用者一緒に行える場面(おはぎづくり、針仕事、洗濯物を干したり・たたむなど)づくりに努めている。その中で、「教える・教えられる」の学びあい、支えあい、気持ちのつながりを深めながら生活をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話を通じての利用者の思いや希望の把握、それが難しい利用者については、表情や声がけの反応から察するほか、家族からの情報によって、思いや意向を把握するようにしている。一部センター方式の採用により、より利用者本位のサービスの提供できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向を踏まえて、計画作成担当者が、原案を立案、他の職員がこの原案に意見を出し合い、最終調整して介護計画として、利用者家族の確認・同意をいただいている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態の変化、アセスメントの結果を踏まえて、週末の職員会議や月例職員会議で全職員が協議して、必要な見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自分が欲しい買い物や理美容等への外出支援、更には孫の結婚式には職員を同行させて参加支援するなど、一人ひとりの思いに合わせて、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療受診は、法人内の医師が主治医として週1回健康管理の面を含め往診している。主治医の専門外で他の医療機関を受診のときは、家族の同行をお願いしているが、家族同行が難しい場合は、職員の通院支援で対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「医療体制連携指針」を作成し、医療連携体制加算の認定を受けている。重度化の対応方針については家族の意思を確認(同意)をしている。また、利用者の健康状態に変化が生じたときごとに、家族の意思確認をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ケース記録などに、個人名の記載が必要な場合は、イニシャル(S・Fなど)で表記するなどプライバシーの保護に工夫をしているほか、居室ドアを開放した際のプライバシー保護のため、暖簾等の設置も検討している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩など、その日の利用者一人ひとりの希望やペースに合わせて支援している。1棟のみの職員で対応が難しい場合は、他の棟の職員が応援・協力するなど2ユニットのメリットを活かして利用者本位の対応に努めている。	○	A棟は、重度化傾向にあり「その人らしい日々の暮らし」支援のあり方の工夫が求められるものとする。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者の食べたいものや旬のものを取り入れて決めており、買い物や調理、盛付け、食事、片付けも、職員と一緒にするなど、楽しみながら食事を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のリズムにあわせ、入りたい時に入れるように努めている。介助についても利用者の意向に沿った方法(介助者:男、女職員)で対応している。	○	A棟では、現在の入浴機会の時間を「午後から」を「午前中から」に拡大したいとしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	縫い物、掃除、食事づくりなどを通じて、茶碗拭き、洗濯物の折りたたみ、部屋の掃除、花への水遣りなど利用者一人ひとりが活躍(役割)できる場面づくりに配慮し、楽しみ・気晴らしには宝くじ購入、外食、買い物、ドライブ、歌など、楽しく変化のある生活を送ることができる場面の設定に努めている。	○	日常の暮らしの中で特段、何もしていない方に対して日常会話や家族からの情報を通じて「新しい発見」をしたいと取り組んでいる。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	馴染みのスーパーへのショッピング(週4回)、散歩のほか、外食、遠出のドライブ(田沢湖など)のほか、一人ひとりの思いや希望に応じた外出支援に努め、利用者の希望を優先し対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、鍵をかけないことを基本としおり、出入は自由である。なお、朝7時から9時頃までの間であるが、この時間帯は食事や後片付け、掃除などを限られた職員でそれぞれ対応していることから、来客を含めた玄関の出入りを確認するため玄関のセンサーを利用している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の協力を得る趣旨から、民営委員の参加をいただいて避難訓練を実施している。今年度も実施が予定されている。地域防災ハザードマップにホームを掲載してもらう予定となっている。ホーム独自の消防計画も策定されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量については、毎日チェック表に記録している。水分が不足しがちな利用者については、その摂取状況を把握して、その確保に努めている。献立や病人食等については、定期的に法人所属の栄養士の指導、アドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにソファや畳スペースを配置するほか、玄関先には外気浴が出来るよう椅子を置いている。ホーム内の清潔を保ち、テレビの音量にも気をつけて、ゆったりと居心地よい時間を過ごせるように努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	趣味で集めたこけし、好きな人形、写真、位牌、自分の描いた絵など、それぞれ思い思いに部屋に配置して、快適に住まいをしている。なお、パンフレットに馴染みのあるものを自由に持ち込みできる旨明記している		